

令和2年度（2020年度）新規研究課題

課題番号：R2-01

課題名：機能性表示食品に向けた県産農産物の評価と食品素材の開発

研究期間：令和2年度～令和4年度（2020年度～2022年度）

研究担当：経営高度化研究室

1 研究の背景

健康長寿社会に向けて健康維持・増進に寄与できる機能性表示食品¹⁾の開発が加速化している。

生鮮農産物を機能性表示して販売することができるようになった。

2 目的

県産農産物に含まれる機能性成分を明らかにし、機能性表示食品としての新たな需要を開拓する

3 研究内容

- (1) ネギ類の栽培特性とルテイン含量の関係を明らかにする。
- (2) 県産農産物（田屋なす、白おくら、はなっこりー）に含まれる機能性成分を明らかにする。
- (3) 機能性成分を食品として多く摂取できる加工方法及び食品素材を開発する。

4 研究のポイント

県産農産物の機能性成分を特定し、さらにその成分含量を保証することで、機能性表示食品として新たな需要開拓が可能となり、産地のブランド力向上による差別化が期待できる。また、産地関係者の生産意欲を高め、所得向上、生産振興を図ることができる。

脚注1) 「機能性表示食品」とは？

企業の責任において、科学的根拠にもとづいた機能性を表示した食品のことです。
“健康の維持および増進に役立つ”という食品の機能性を表示することができます。

機能性表示食品に向けた県産農産物の評価と食品素材の開発

研究期間：R2-R4（2020-2022）
研究担当：経営高度化研究室

【背景】

食生活を巡る情勢

- ・生活習慣病の増加
- ・高齢化による医療費の増大

機能性表示食品の推進

- ・食と健康の相関性
- ・生鮮農産物の機能性表示が可能
- ・健康増進・疾病予防への活用



【目的】

機能性成分
による
県農産物の
付加価値化

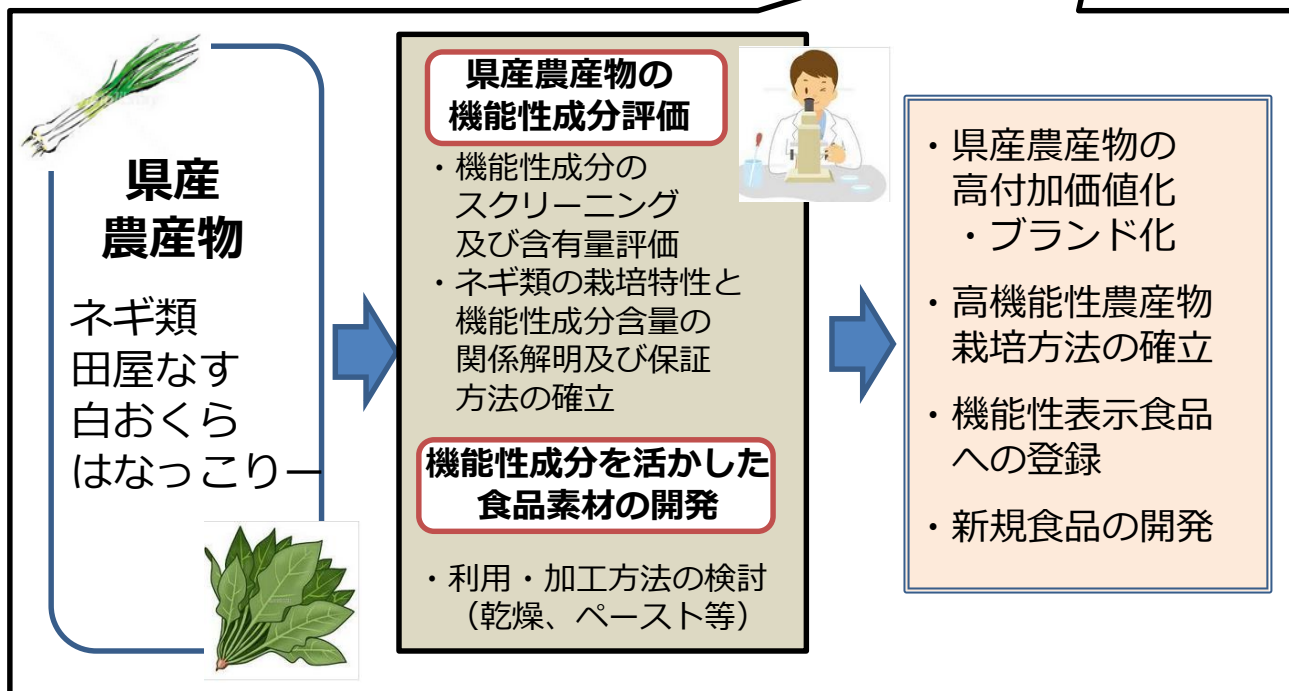
【課題】

- 1 県産農産物の機能性成分の解明
- 2 機能性成分と栽培条件等との関係解明（ネギ等）
- 3 利用・加工方法の開発

他県の例

- 温州みかん（β-クリプトサンチン）
- ホウレンソウ（ルテイン）

【研究内容と波及効果】



- ・機能性表示食品の開発
- ・農産物の消費拡大

- ・県内食品産業の活性化
- ・県内農業の活性化